

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 49

1. 基本情報							
＜1＞ 事業・業務名		消防団車両整備事業(消防ポンプ自動車)			＜2＞ 事業・業務の別		事業
＜3＞ 選定基準		② 平成29年度新規・継続重点事業			＜4＞ 継続評価・新規評価の別		新規評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	5 災害に強く 快適で住みよい 夢を支えるまちづくり			＜6＞ 担当部(局)		消防本部
	中項目	5-1 災害に強く安全安心なまち			＜7＞ 担当所属		総務課
	小項目	5-1-2 消防・救急			＜8＞ 担当係等		経理係
	施策	消防施設等の整備及び拡充					
＜9＞ 根拠法令・計画等		消防組織法・消防力の整備指針		＜10＞ 関連・類似事業		消防車両整備事業	
＜11＞ 会計		一般 会計		＜12＞ 予算科目		9 款 1 項 3 目	
＜13＞ 実施期間		29 年度 ～ 年度		＜14＞ 全体事業費		31,000 千円	
＜15＞ 実施手法		直営		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
＜16＞ 事業・業務の概要		老朽化した消防団車両を順次更新整備する。							
目的	＜17＞ 事業・業務の目的	老朽化した消防団車両を更新整備し、火災、救急等の災害対応能力を強化させ、市民の生命身体を災害から護るとともに、被害の軽減を図ります。							
	＜18＞ 事業・業務の対象	小山市消防団第2分団1部、第11分団1部の2消防団車両を更新整備する。							
手段	＜19＞ 平成29年度の活動内容	小山市消防団第2分団1部、第11分団1部の消防団車両2車両を更新整備した。							
	＜20＞ 活動指標 (アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	車両更新計画	台	2	2	2	2	100.0%		
成果	＜21＞ 事業・業務の成果	車両の更新により、災害対応能力及び活動時の安全性が向上した。							
	＜22＞ 成果指標 (アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
	車両更新台数	台	2	2	2	2	100.0%		
コスト ～資源の投入量	＜23＞ 投入指標 (インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	36,829	34,785	33,878	33,550	99.0%	
		事業費等	千円	32,500	30,456	31,000	30,672	98.9%	
		財源内訳	国・県補助金	千円					
			地方債	千円	30,800	28,800	29,400	29,000	98.6%
			その他	千円					
一般財源	千円	1,700	1,656	1,600	1,672	104.5%			
人件費	千円	4,329	4,329	2,878	2,878	100.0%			
正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.6	7,214 × 0.6	7,195 × 0.4	7,195 × 0.4				
他の職員		×	×	×	×				

3. Check - 評価 -								
実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の妥当性	1.妥当である	理由	消防力を維持するために最も有効な手段である。			
		<25> 手段や実施手法の妥当性	1.妥当である		消防車両の整備は、消防組織法により当該市町村が整備することとなっている。			
	有効性	<26> 成果の向上余地	2.向上の余地がある	理由	更に装備の充実した車両を整備することにより、災害対応能力は向上する余地がある。			
	効率性	<27> 事業費や人件費の削減余地	1.削減の余地なし	理由	車両の価格は年々上昇しており削減の余地はない。			
	公平性	<28> 受益者負担の適正化余地	1.適正	理由	消防車両の整備について、地域住民に負担を求めることは妥当ではない。			
		<29>総合評価	2.改善の余地がある	理由	消防車両は高額なため、車両更新計画に基づいて更新しているが、更新年限等の見直しを視野に入れ、今後検討していく余地がある。			
4. Action - 改善 -								
事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等		老朽化した車両がトラブルを起こすと、消防力が低下し、被害の拡大に直結する。費用が高額であるが、更新計画に基づいて順次整備する必要がある。					
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	車両の導入と併せてより効果的な資機材の導入、安全装備の充実化を検討していく必要がある。仕様書の内容も精査を進めること。			
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	老朽化した車両がトラブルを起こすことにより、取り返しのつかない状況が発生しかねない。更新計画を定期的に見直し、より早い更新に努め、消防力を維持し、地域住民の生命、身体、財産を守ること。			
5 Plan - 計画 -								
事業の計画	<33>実施計画	更新計画及び仕様書の定期的な見直しを行い、早期更新を図る。		<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
							計画	計画
	コスト	千円	34,878		18,878			
	事業費等	千円	32,000		16,000			
<34>活動・成果目標	より災害対応能力に優れた車両を更新計画通りに整備する。			人件費	千円	2,878	2,878	